

第11回「先輩と語る」講演会

薬害の歴史と薬物治療のリスク管理 --サリドマイド被害者の立場から--

演者：佐藤嗣道 博士（28期生）

東京大学大学院医学系研究科薬剤疫学講座

日時：6月28日（月）18:30-20:00

場所：北海道大学薬学部臨床薬学講義室

主催：北海道大学薬学部 共催：日本薬学会北海道支部

後援：北海道大学薬学部同窓会

佐藤嗣道さんは、1985年に薬学部(薬剤学講座)を卒業後、1995年に東京医科歯科大学大学院の博士課程(臨床薬理学)を修了され博士(医学)を取得しています。以後、医薬品の安全性(および有用性)を疫学的手法を用いて評価する「薬剤疫学」に従事され、現在は東京大学において研究・教育に従事しています。

医薬品には優れた効果がある反面、重大なリスクを伴うものもあります。過去の薬害事件では容認できない健康被害が続き、薬の販売中止に至りました。しかし、医薬品は社会的財産であり、適切なリスク管理によってリスクを最小にし、患者さんの治療に役立てることが重要です。今回は、ご自身がサリドマイド薬害事件の被害者であり、薬の安全性を研究する立場から、サリドマイド事件の歴史と最近再び承認されたサリドマイドのリスク管理の実際を中心にお話して頂きます。当日は質問時間をもうけますので活発な質問を期待します。会場が狭いので早めにお越し下さい。

連絡先：北大大学院薬学研究院薬化学研究室 松田 彰(011-706-3228)